

Ⅱ. 教職に関する専門教育科目

教育原理 月曜1限 (Principle of Education, the 1st period, Monday)

全学科 1年・2年 前期 選択必修科目 2単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」「幼児、児童および生徒の心身の発達および学習の過程」「教育に関する社会的・制度的または経営的な事項」に関して講義を行い、次の点を目的とする。

- ①教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察すること。
- ②子どもの発達にかかわるさまざまなエージェントの役割について理解するとともに、現代社会における子どもの育ちと学びについて考察すること。
- ③現代の学校教育を取り巻く社会情勢を踏まえ、その課題を探求すること。

●授業の位置付け

自らが有する子ども観や教育観を反省的に捉えられると同時に、志向する教育制度や教育実践などについて表現できるようにすること。特に、工業の教員免許を取得する点に留意し、現代社会における中等教育および職業教育の役割について理解を深められるようにする。

2. キーワード

子ども観・教育観 生涯発達・生涯学習 中等教育 職業教育 教育問題

3. 到達目標

- ①自らの子ども観・教育観を深め、志向する教育制度や教育実践を表現できるようにする。
- ②多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようにする。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション－「子ども」と「大人」の思想史－
- 2回 教育的人間関係の基本構造と教育者の条件
- 3回 乳幼児をめぐる状況と課題－子どもにかかわる諸機関－
- 4回 教育と子育て（1）－ライフサイクルの視点から－
- 5回 教育と子育て（2）－社会化エージェントの視点から－
- 6回 諸外国および日本における学校教育の誕生と発展
- 7回 日本の初等教育の制度的課題
- 8回 日本の中等教育の制度的課題（1）－中学校の場合－
- 9回 日本の中等教育の制度的課題（2）－高等学校の場合－
- 10回 日本の中等教育の制度的課題（3）－職業教育の場合－
- 11回 現代教育の諸問題（1）－不登校といじめ－
- 12回 現代教育の諸問題（2）－児童虐待と少年犯罪－
- 13回 教育の場の再構築（1）－生涯学習時代の到来－
- 14回 教育の場の再構築（2）－情報社会と教育の変革－
- 15回 まとめ

5. 評価方法

●授業は講義形式でおこなう。視聴覚教材、配布資料をもちいる。

●成績評価

小レポート 30%
 期末レポート 70%

6. 教科書、参考文献

●教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。

●参考文献

柴田義松他 『中等教育原理』有斐閣双書
 柴田義松他 『教育原論』学文社

7. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと

教育心理学 Educational Psychology

全学科 第1・2年次 前期 単位区分 選択必修 2単位

担当教員 今村義臣

1. 概要

●授業の背景

児童・生徒を指導・教育する立場にある者は、環境をコントロールし、子ども達が最大限の心身の発達を達成できるように援助する必要がある。そのためには人間の心のしくみの理解が必要である。心理学は、科学的な視点から人間の心のしくみに関する知識を授けてくれる学問であり、教育心理学は、その中でも教育的観点に焦点付けを行った知識を授けてくれる。

●授業の目的

教育者を志すものにとっては、教育心理学で得られた理論を学習し、それを現場でどのように活用するかが重要である。ここでは、心理学のみならず脳科学で得られた知見も交え、児童・生徒の指導上の諸問題に関する知識および技術を習得することが目的である。

●授業の位置付け

教育心理学は教職専門科目の中でも重要な科目の1つである。また、他の心理学の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

(関連する学習教育目標：X)

2. キーワード

教育心理学、行動科学、認知科学、臨床心理学

3. 到達目標

教育心理学で最低必要な知識（発達、学習、人格と適応、障害児教育等）の習得。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 発達1 こころ（脳）の基本的メカニズムを成長と発達の観点から学びます。
- 第3回 発達2
- 第4回 発達3
- 第5回 学習1 学習の原理と学習指導について学びます。
- 第6回 学習2
- 第7回 学習3
- 第8回 学級集団 学級集団を把握するための理論・方法を学びます。
- 第9回 知能 知能のメカニズムについて学びます。
- 第10回 人格と適応1 人格と適応の諸理論を学びます。
- 第11回 人格と適応2
- 第12回 人格と適応3
- 第13回 障害児1 障害児の心理と教育について学びます
- 第14回 障害児2
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

配布資料は常に持参すること。ノートをとること。

7. 教科書・参考書

●教科書

新教職課程の教育心理学 中西信男・三川俊樹編 ナカニシヤ出版

●参考書

適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

E-mailアドレス

gishin@std. mii. kurume-u. ac. jp

教育社会学 月曜1限 (Sociology of Education, the 1st period, Monday)

全学科 1年・2年 後期 選択必修科目 2単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育社会学の対象範囲はきわめて広いが、本講義では、教育をひとつの文化現象として捉え、教育によってもたらされる社会構造の再生産や変容、文化変動・社会変動と教育との関連、子ども・若者が日常生活の中でつくり上げる生活様式などについて講義する。

●授業の位置付け

教育は他のあらゆる社会現象と相互規定的な関係を持つ包括的な現象であり、様々な角度から論じることができる。たとえば、スパートニック・ショックのように、テクノロジーと教育が密接に結びついた例もある。本講義では、このような包括的な教育という現象に、文化という視点から迫り、社会や文化に対して教育が果たす役割について理解を深められるようにする。

2. キーワード

文化伝達・文化的再生産 エスニシティ ジェンダー ポスト工業化 メディアリテラシー サブカルチャー

3. 到達目標

- ① 教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようにする。
- ② 教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようにする。
- ③ 教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化に対する相対的な視点を獲得する。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション-教育とは、文化と何か-
- 2回 文化伝達としての教育-育児としつけ-
- 3回 文化的再生産と教育-家族、階層、言語-
- 4回 エスニシティと教育-人種、民族、国家-
- 5回 ジェンダーと教育(1)-子どものジェンダー発達-
- 6回 ジェンダーと教育(2)-学校におけるジェンダー-
- 7回 メディアと教育(1)-ポスト工業化の進展と教育-
- 8回 メディアと教育(2)-子どもを取り巻くメディア世界-
- 9回 メディアと教育(3)-メディアとジェンダー-
- 10回 メディアと教育(4)-メディアリテラシー教育の現在-
- 11回 子ども文化の諸相(1)-現代社会における子ども-
- 12回 子ども文化の諸相(2)-子どもが創る文化と子どものための文化-
- 13回 若者文化の諸相(1)-現代社会における若者-
- 14回 若者文化の諸相(2)-サブカルチャーの世界-
- 15回 まとめ

5. 評価方法

●授業は講義形式で行う。視聴覚教材、配布資料で説明する。

●成績評価

小レポート 30%
 期末レポート 70%

6. 教科書・参考文献

●教科書 特に指定しないが、参考書をそのつど指示する。

●参考文献

住田正樹他『教育文化論』放送大学出版会
 小谷 敏『若者論を読む』世界思想社
 小谷 敏『子ども論を読む』世界思想社

7. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。

教育課程の研究 Curriculum

全コース 2年次 前期 (集中講義) 2単位

担当教員 堺 正之

1. 概要

教育職員免許法施行規則で定められている「教育課程及び指導法に関する科目」のひとつである。「各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間」からなる学校の教育活動の全体計画である教育課程についての理解を深めるとともに、これを運営してゆく際の基本的な問題について考察する。

2. キーワード

学校 教科 道徳 特別活動 総合的な学習の時間

3. 到達目標

- ①各自が受けてきた学校教育の内容を教育課程という視点から対象化する。
- ②教育課程を構成する各領域の目標、内容、その現代的意義をふまえた指導の在り方について理解する。

4. 授業計画

- 1回 はじめに-学校教育をとりまく状況-
以下 教育課程総論
- 2回 教育課程とは何か・語義/意義・領域/構造
- 3回 教育課程の変遷
- 4回 教育課程の類型(1)
- 5回 教育課程の類型(2)
以下 教育課程各論
- 6回 教科(1)学習指導要領と教科の内容
- 7回 教科(2)学習指導の基本
- 8回 道徳(1)道徳教育の目標/道徳の内容
- 9回 道徳(2)道徳の指導計画/道徳の時間の指導
- 10回 特別活動(1)特別活動の目標・内容
- 11回 特別活動(2)特別活動の指導計画・実践事例
- 12回 総合的な学習の時間(1)新設の意義・内容
- 13回 総合的な学習の時間(2)計画・実施・評価
- 14回 講義のまとめと質疑
- 15回 試験

5. 評価方法

最終テストによる。ただし、本科目は集中講義であるので、原則として全時間の出席が必要である。

6. 教科書

田中耕治他『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ 2005年

